



地域連携だより

～流行時期に向け、改めて基本を丁寧に～

今回は手指衛生の遵守率向上に向けた当院の対策を報告します。

私たち医療従事者は「石鹸と流水での手指衛生」と「速乾性アルコールジェルを用いた手指衛生」を場面ごとに使い分けています。インフルエンザや新型コロナウイルスは、速乾性アルコールジェルでこまめに手指消毒することが推奨されています。コロナ感染症の流行により日常的に消毒剤を持ち歩く方をこれまで以上に見かけるようになりました。ノロウイルスはアルコールが効かないウイルスなので、石鹸と流水での手指衛生が必須となります。



感染管理対策室
室長 白井 智美

手指衛生が遵守されない理由

- 設置場所に問題がある(56名、37.6%)
- 面倒である(41名、27.5%)
- 手が荒れる(39名、26.2%)
- 必要性がない/感じない(69名、46.3%)
- その他(18名、12.1%)

出典：加藤豊範「手指衛生遵守率向上のための組織的な取り組みとその評価 (2015年、日本環境感染学会誌33巻4号、274-280)」

医療従事者にとっては基礎的な知識でもあり、ガイドラインや啓発キャンペーンが広く知られているにもかかわらず、規定通りの手洗いを行っている医療スタッフは約6割にとどまるというデータもあり、手指衛生の遵守率向上が課題になっています。手指衛生は正しく実施できていないと職員・患者双方の感染リスクを高めることに繋がってしまいます。

感染管理対策室では手指衛生について新人研修や、感染対策の基本として院内研修を実施しています。その後、正しいタイミングで手指衛生が出来ているか、「手指衛生直接観察シート」を作成し、ICT(感染制御チーム)メンバーでラウンドを実施し、結果を可視化し、現場へフィードバックを行っています。

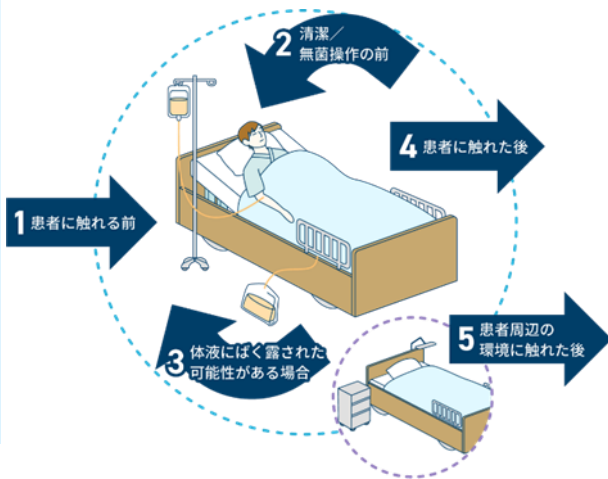
開始した頃は、看護部を中心に行っていました。感染対策室やICTメンバーの姿が見えると、意識して手指衛生を行う姿もあり、遵守率も徐々に向上しましたが、慣れてくると徐々に遵守率の低下が見えてきました。

そこで看護部感染防止対策委員会メンバーにも自部署の直接観察を実施してもらい、日常業務の中でスタッフの手指衛生状況を客観的に見てもらい、その結果を部署ごとに報告してもらいました。スタッフ同士、毎日手指衛生が出来ていない場面を見ているはずなのに、日常業務の中でそれを見過ごしている、という事を知ってもらうことは「直接観察者」と「現場」の間にある認識のずれをなくすことにも繋がります。

繰り返し観察を行い、都度声掛けを行い、丁寧に説明を行うことで、現場の意識も高まり、遵守率、アルコール使用量ともに上昇してきました。現在は看護部だけでなくリハビリや事務など職種に応じた観察シートを作成し、組織全体で手指衛生の遵守率向上に取り組んでいます。

手指衛生は感染防止対策の基本ですが、正しいタイミングで行うことが重要です。今後も直接観察を繰り返し行い、遵守率向上に向けた様々な取り組みを多職種で連携し取り組んでまいります。

感染対策に関するご相談やご依頼がありましたらいつでも対応させていただきますのでよろしくお願い致します。



部署: _____					
瞬間	対応	手指衛生	瞬間	対応	手指衛生
1	<input type="checkbox"/> 患者前	<input type="checkbox"/> アルコール	6	<input type="checkbox"/> 患者前	<input type="checkbox"/> アルコール
	<input type="checkbox"/> 清潔操作前	<input type="checkbox"/> 石けん流水		<input type="checkbox"/> 清潔操作前	<input type="checkbox"/> 石けん流水
	<input type="checkbox"/> 曝露後	<input type="checkbox"/> 石けん流水		<input type="checkbox"/> 曝露後	<input type="checkbox"/> 石けん流水
	<input type="checkbox"/> 患者後	<input type="checkbox"/> 石けん流水		<input type="checkbox"/> 患者後	<input type="checkbox"/> 石けん流水
	<input type="checkbox"/> 搬送後	<input type="checkbox"/> 石けん流水		<input type="checkbox"/> 搬送後	<input type="checkbox"/> 石けん流水
		<input type="checkbox"/> 手袋後			<input type="checkbox"/> 手袋後
		<input type="checkbox"/> 行わず			<input type="checkbox"/> 行わず
瞬間	対応	手指衛生	瞬間	対応	手指衛生
2	<input type="checkbox"/> 患者前	<input type="checkbox"/> アルコール	7	<input type="checkbox"/> 患者前	<input type="checkbox"/> アルコール
	<input type="checkbox"/> 清潔操作前	<input type="checkbox"/> 石けん流水		<input type="checkbox"/> 清潔操作前	<input type="checkbox"/> 石けん流水
	<input type="checkbox"/> 曝露後	<input type="checkbox"/> 石けん流水		<input type="checkbox"/> 曝露後	<input type="checkbox"/> 石けん流水
	<input type="checkbox"/> 患者後	<input type="checkbox"/> 石けん流水		<input type="checkbox"/> 患者後	<input type="checkbox"/> 石けん流水
	<input type="checkbox"/> 搬送後	<input type="checkbox"/> 石けん流水		<input type="checkbox"/> 搬送後	<input type="checkbox"/> 石けん流水
		<input type="checkbox"/> 手袋後			<input type="checkbox"/> 手袋後
		<input type="checkbox"/> 行わず			<input type="checkbox"/> 行わず

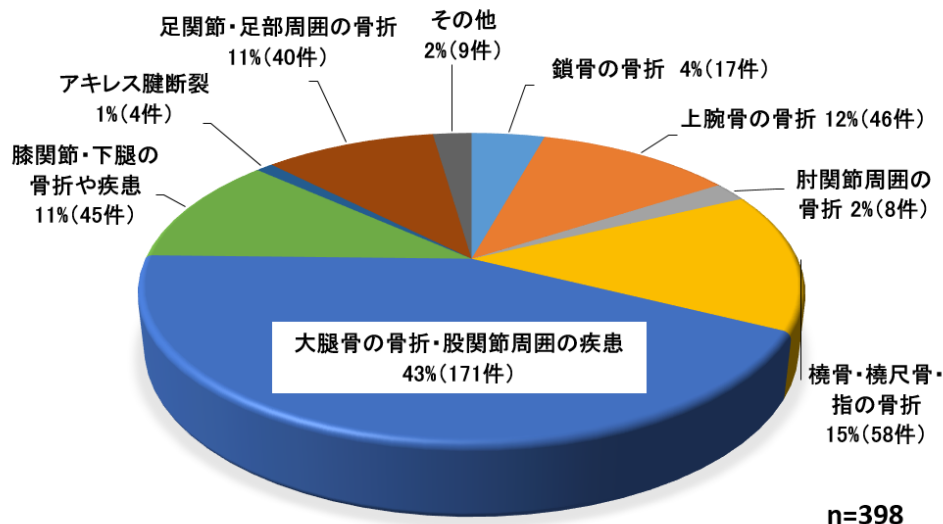
地域から頼りにされるリハビリを目指して～整形外科術後早期介入への取り組み～

今回は、東大阪病院での整形外科的治療（以下手術）後の早期リハビリテーションについてお伝えします。

東大阪病院整形外科では、①24時間365日、整形外科対応が可能 ②内科疾患のある高齢者の方は内科・整形外科医師の両方でサポート ③低侵襲手術への積極的取り組みを行っています。この先生方の取り組みをしっかりと支え患者さんが1日でも早く希望される生活の再獲得ができるように、私たちリハビリ療法士は、理学療法士（PT）19名、作業療法士（OT）8名、言語聴覚士（ST）4名と充実したスタッフを配置し、「早期離床・廃用予防」「日常生活動作の早期再獲得」「QOL維持康向上」を目的に、手術翌日からのリハビリテーション（以下リハビリ）の開始を徹底してきました。

グラフは、2020年度の「整形外科手術の部位別件数」と「手術翌日のリハビリ開始率」です。

整形外科手術の部位別件数

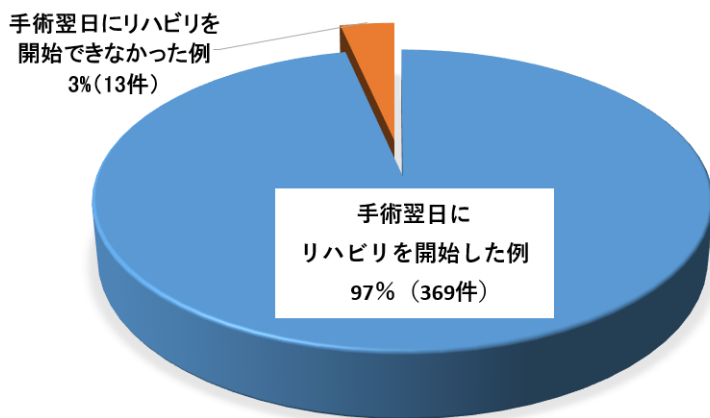


*おひとりの患者さんで2か所の骨折がある場合はそれぞれで集計しています

n=398

手術を受けた患者さんの年齢は、平均71.3歳（最少11歳、最年長101歳、中央値76歳）で、若い方から高齢者の方まで、様々な年代の方に対応しています。また、上肢・下肢問わず、様々な部位に対応し手術とリハビリテーションを行っていることがわかります。手術翌日に実施できなかった方も翌々日には開始しています。術後翌日からのリハビリに驚かれる方もおられますが、痛みのコントロールを行いながら患者さん個別の状態に合わせて行っています。

手術翌日のリハビリ開始率



*術後、リハビリを実施した患者さんについて集計しています。

n=382

リハビリを受けられた患者さんの在院日数は平均12.6日（最少2日、最大153日、中央値8日）です。おおよそ1週間程度で退院して外来リハビリへ移行したり、リハビリ病棟での継続的なリハビリが必要な方は回復期リハビリ病棟への転棟をいただいています。

東大阪病院 地域連携部

直通TEL

06-6932-0369

直通FAX

06-6932-0086

東大阪病院 (代表)

大阪府大阪市城東区中央1丁目7-22

TEL:06(6939)1121 FAX:06(6939)1191